

うっしっしいー情報2023

2月市



豊岡農業改良普及センター

2月8日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が76万3千円、雌が69万5千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	3	0.941	750,933	1	0.895	674,300	4	731,775
丹波篠山	4	0.924	709,500	1	0.795	699,600	5	707,520
丹波	13	0.937	725,069	13	0.840	706,031	26	715,550
朝来	3	0.972	790,167	4	0.856	675,675	7	724,743
播磨	18	0.916	710,478	11	0.887	717,600	29	713,179
美方郡	39	0.952	772,764	24	0.833	682,092	63	738,222
豊岡	10	1.013	839,190	11	0.890	702,000	21	767,329
養父	18	0.952	835,756	13	0.887	718,554	31	786,606
摂津・神戸	16	0.966	742,019	8	0.893	708,125	24	730,721
県北C	2	0.831	528,000	2	0.705	470,800	4	499,400
市場全体	126	0.949	763,313	88	0.860	695,325	214	735,355

2月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	丸若土井	21	0.943	801,167	26	0.879	759,042	47	777,864
2	丸池土井	12	0.964	785,400	11	0.900	720,600	23	754,409
3	丸春土井	7	0.985	818,086	5	0.887	659,780	12	752,125
	総計	126	0.949	763,313	88	0.860	695,325	214	735,355
4	山伸土井	12	0.966	764,042	5	0.859	650,980	17	730,788
5	忠味土井	20	0.937	763,070	11	0.827	657,000	31	725,432
6	藤彦土井	10	0.957	755,370	8	0.840	656,425	18	711,394
7	照和土井	12	0.965	721,600	4	0.838	631,675	16	699,119
8	丸明波	7	0.884	687,814	5	0.849	664,180	12	677,967

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	丸若土井	A	A++	A++	A	A++	A++ → A+
2	丸池土井	D	A++	D	A → B	A++	A++
3	丸春土井	C	B	C	B	B	A++ → A+
4	山伸土井	A+ → A	A++	C → D	A+	A+	A
5	忠味土井	B	A+	A	B	A+	A+
6	藤彦土井	A++ → A+	A+ → A	C	D	D	A+ → A
7	照和土井	A+	A	B	A	A	A
8	丸明波	D	A+	D	C	A	A+



バックナンバー
はここから

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和5年1月現在)



何産目の子牛ですか

～家畜市場取引からわかること～



子牛の市場価格は、出荷時の発育によって大きく変動することはよく知られています。また子牛の発育差は、母牛の泌乳量の影響が大きいといわれています。「母乳が少ないので初産の子牛は小さくて安い」とよく耳にしますが、本当にそうなのでしょうか。今回は、但馬家畜市場の過去3年間（平成31年4月市～令和4年3月市）の取引結果をもとに、産次数による子牛出荷日齢および出荷時の日齢体重の違いを分析しました。分析頭数は、出荷頭数（雄除く、本人落札含む）8,932頭で、うち去勢子牛5,084頭、雌子牛3,848頭です（表）。

表 産次別但馬家畜市場出荷頭数（平成31年4月市～令和4年3月市）

産次数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10以上	合計
去勢	707	706	567	440	382	378	319	341	320	924	5,084
雌	600	517	418	344	269	255	268	262	264	651	3,848
合計	1,307	1,223	985	784	651	633	587	603	584	1,575	8,932

【分析1】産次別の子牛出荷日齢

子牛出荷日齢の平均は、去勢子牛261.7日、雌子牛269.9日でした。産次別の子牛出荷日齢は、去勢子牛、雌子牛とも1産目は市場出荷までに要する日数が平均よりも長いことがわかりました（図1）。

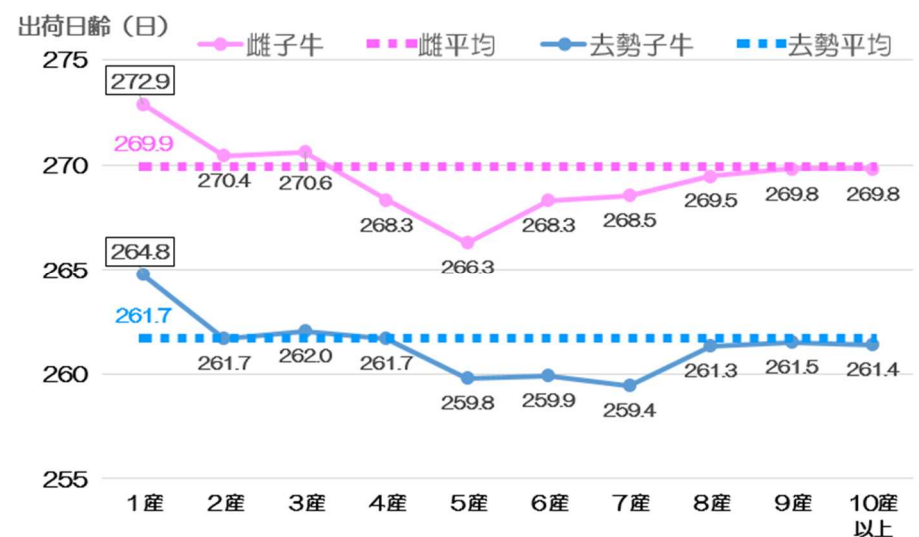


図1 産次別の子牛出荷日齢

【分析2】産次別の出荷時日齢体重

「日齢体重」とは、体重を日齢で割った数値で、出荷時における子牛発育を評価する指標になります。一般的に、子牛の出荷時日齢体重が大きい方が、発育が良いと評価されます。1産目の出荷時日齢体重は、去勢子牛0.93、雌子牛0.83で、どちらも全産次において最低値となりました（図2）。2産目以降は、大きな変動はありませんでした。

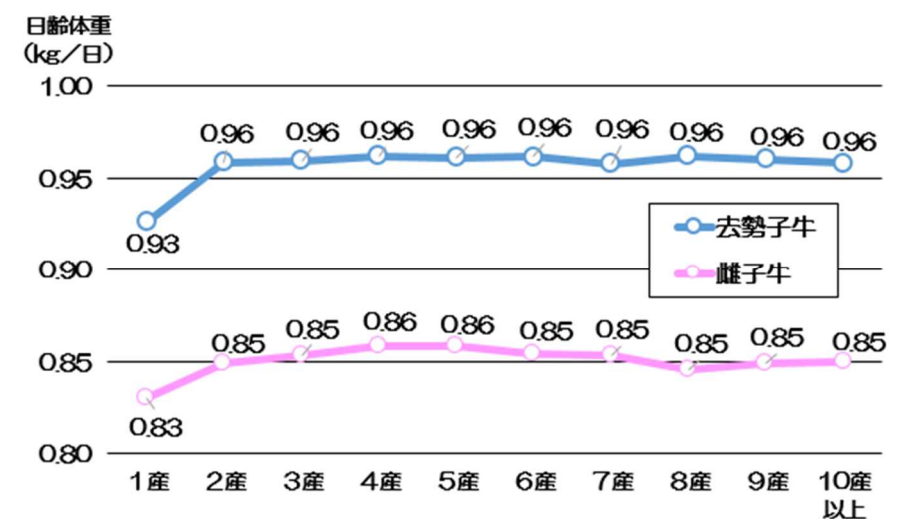


図2 産次別の出荷時日齢体重

以上の分析結果から、去勢子牛、雌子牛とも、1産目の子牛出荷日齢が長く、出荷時日齢体重が少ないことがわかりました。この原因の一つとして、哺乳不足が考えられます。産次別の1日当たり哺乳量のうち、4週齢時をみると、4産目が最も多く、その後、産次数が進むとともに減少する傾向にあります（図3）。4週齢時の哺乳量が子牛の初期発育に大きな影響を及ぼすことから、1、2産目や産次数の進んだ母牛は哺乳量が少なく、母乳だけでは子牛への栄養が足りない可能性があります。母乳を十分に飲めない子牛は、体に栄養が行き渡らないため、免疫機能が低下し病気になるやすくなります。その結果、発育が停滞し、市場出荷までに要する日数が長くなる原因となります。健康で元気な子牛をつくるためには、追加哺乳が有効です。追加哺乳の方法は、令和4年5月市場情報掲載「適切な追加哺乳できていますか？」をご参照ください。

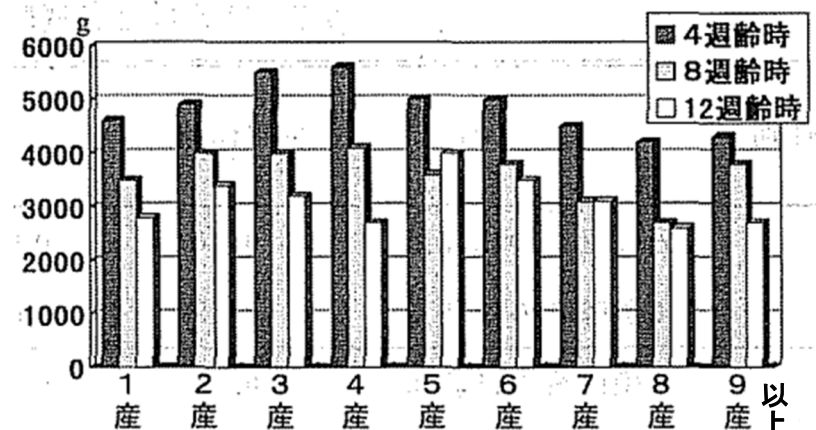


図3 産次別の1日当たり哺乳量の比較

（出典：兵庫県農業技術センター研究報告、畜産編(1999年)）

（右のQRコードを読み取ると記事をご覧いただけます。）



1産目の子牛は、市場出荷までに要する日数が長くなり、出荷時日齢体重が低い傾向があります。

⇒母牛の哺乳量不足による子牛の発育遅延がみられる場合は、追加哺乳で対策しましょう！